

テント一週一文（こ）—— 紹介：脱原発！ 電力労働者九州連絡会議「元電力労働者が、なぜ原発に反対するのか」

（承前）

「近頃日脚が伸びてきて、仕事ができますよね～」と福岡市内で農業をしている男性が、楽しくて仕方がない、という雰囲気誰に言うともなくテント内の沈黙を破ります。

いつもは机の上のチラシなどを整理していた女の人が、すかさず「でも朝の仕事はまだ冷たいでしょう」と無難な質問をします。彼女はいつもはあまり喋らないので、誰かの言葉に直ぐ反応するのは珍しいことです。再びテント内に沈黙が来るのを避けたかったのでしょうか、それとも暖かさに釣られてでしょうか。

「一時に比べるとずいぶん暖かくなりましたよ。それに農業をはじめて5年経ちますから、時期に慣れまし……」

テントの中の「テント六周年記念 2011/4/20 ～ 2017/4/20」と書いた横断幕の修理をしていた女の人が「時期って今の時期の暖かさってこと」と男の人の言葉をさえぎり、整理係の質問を引き取ります。

「そうなのですがね……」とゆっくり答えようとする男の人の言葉を今度は整理係が「ア、これこれ。ここにあったんだわ」とさえぎってしまいます。先ほど修理係にさえぎられた腹いせをしたのかもしれませんが、可哀想なのは男の人です。修理係にも整理係にも話の腰を折られてしまったのですから。

修理係（以下：「修」）はそのことには少しも気にせず、「何があったって言うの?」と整理係に尋ねます。整理係（以下：「整」）も男の人へのフォローはしません。わが道を行きます。「脱原発！ 電力労働者九州連絡会議の会報がこの前テントに届いて。それを探していたの。ここにあったんだわ」と大判の3月18日集会ポスターの下から会報を取り出して見せました。

修：脱原発！ 電力労働者九州連絡会議？ 初めて聞いたわ。

整：私もこの会報を見るまで知らなかったのよ。この会は2011年3月以降に発足していて、電力労働者を中心とした連絡会で、その母体は全九電労組の人たちよ。

修：九電の労組？

これに整理係も「長い歴史があるそうよ」と答えます。彼女はいつもは聞き役ですが、興が乗ればどんどん喋るようです。

修：もったいぶらなくて、短くまとめてよ。

整：もったいぶっているわけじゃなくて、昔のことだからなかなか思い出せないのよ。30年前だけど、1987年にそれまでの長い折衝を経て右寄りの労働組合再編が大々的に行われたことは知っているでしょう。

修：30年前？ ちょっと待ってね。ア、それまでの総評と同盟という大きな組織が統一して今の連合が発足した時のこと？

整：そうそう。連合だけでなく、統一労組懇や、時期は少しちがうけど……。

修：あらまた時期のこと？

整理係は「あらまた時期のこと？ って何のこと?」と、聞き返します。修理係の横道質問に少し戸惑ったようですが、直ぐに手を左右に振って、「違うの、違うの。私

の言っているのは、この方の」と一瞬だけ話の腰を折られた男性の方を向きますが、また修理係に向かって説明します。「畑を耕したり、種をまいたりする時期のことじゃなくて、88年とか89年とかの時期のこと」と少し語尾を上げます。

修：分かった、分かった。それで？

整：時期は違うけど…… いい？ この時期に全労連や全労協も発足したの。それまでに九電には組合が二つあって、一つは組合員が1万人位、一つは700人位。この小さい方がさっき言った全九電労組。二つが一つになろう、というか、一つにしよという意見が出て、統一されたのが1997年。

修：約10年後なのね。

整：二つの組合は九電の求める、今で言うリストラ、事業所廃止、業務の外注というような合理化協力の方針、職場の権利や組合自身の支持政党、それに原発への対応などが異なっていたの。原発について言うと、全九電労組は事故と廃棄物の危険性や経済性の疑問、電力供給過剰問題、平和利用のウソ、欺瞞性ですよ、それらの視点から原発反対・不要を企業内で主張していたらしいわ。

修：原発の問題点で、今も、昔から指摘されていたのと変わらないのよね。マ、それで統一後はどうなったの？

整：労使協調路線組合への吸収合併に反対した全九電労組の一部組合員はそれぞれの立場で発言は続けたし、長崎では組合員とその家族で全九電同友会（現在約70人）も続いていたの。でもその大きな組合は電力総連加盟だし、組合内の流れは労使協調、会社のご説ご最も、ね。

修：さっき脱原発！ 電力労働者九州連絡会議は3.11以降に出来たって言わなかった？

整：福島での原発事故を直視して正面から反原発運動を再開しよう、広げようという趣旨で、全九電同友会を中心に立ち上げたのですって。中国電力（電産中国）、東京電力、東北電力などの仲間との全国連絡会もあるそうよ。九州連絡会議のメンバーは熊本、福岡、佐賀、長崎、宮崎など30名位で、長崎の全九電同友会がコアになって運動を進めているのですって。

会では、「原発依存ではなく“脱原発”こそが、国民の命の安全からも、労働者の安全と生活安定にも、電力の経営や社会的責任においても、絶対に譲れない！」との方針を合言葉に活動しているそうよ。

修：思い出したわ。電力労働者九州連絡会議ってよく九電に公開質問状を出したり、九電との交渉に参加して、市民団体と一緒に活動していない？

整：しているそうよ。この前2月6日の九電交渉でも、覚える？ 昨年12月13日の広島高裁判決に九電が驚いて、予定していた12月21日の直前になって延期した交渉があったでしょう、その交渉が2月6日にあったのよ、それにこの会議のメンバーの川瀬さんともう1人の方が来ていたわ。そして、3.11事故後、「原発なしでも電力大幅余力！」「原発関連費用・負債、5兆円超！」のことについて説明資料を九電に渡し、3E（安定供給性・経済性・環境性）優位性のウソに迫っていたわ。

修：そうね。九電が公表する数値はマユツバが多いから、市民の側から根拠のある数値を出すべきなのよ。例えばだけど、九電は原発1基の廃炉費用は約350億円て言ってるの。誰も信用していないのよ。もはや1000億円を超えると指摘されてるよ。

それはそれとしてあなたは難しいことをおっしゃっているんだけど、何か虎の巻を隠しているの？

整：虎の巻じゃないけど川瀬さんたちの会議の資料はあるわ。会報に付いていたわ。

修：ア、それ見せて。

整：いいわよ……

修：長いわね……。13 ページもあるわ。

整：そうね……。とりあえず前半を読んで。私たちがおおよそでは把握している事柄を具体的な数字を挙げて説明しているので、分かり易いし、納得いくわよ。

修：そう？ ちょっと読ませて、訂正、全部読み通すのは大変だから、眺めさせてね。

整：川瀬さん自身は、この報告書を書いたのは2016年だから数値が少し前の数値なので、とおっしゃっているわ。それを頭に入れて「眺めて」ね。

修：分かったわ。でも元電力関係の方で九電の原発の問題点を、特に数値を挙げて指摘するって、すごいことよね。

と、脱原発！ 電力労働者九州連絡会議の資料を見ながら沈黙が続いたテントでした。

(文責 栗山次郎)

2018年2月26日公開

参照：脱原発！ 電力労働者九州連絡会議・全九電同友会事務局長 川瀬正博：(2016年7月10日 第33回天草環境会議での報告資料)「元電力労働者が、なぜ原発に反対するのか」(前半)。

http://npg.boj.jp/kieyuku/week_repo/180226kawase.pdf